

工事概要書

1. 工事名称

平成29年度 弘前市墓地公園小型焼却炉解体工事

2. 工事場所

弘前市大字小沢字井沢43-3

3. 工事期間

90日間

4. 施工理由

現在未使用の小型焼却炉を解体・処分するものである。

5. 施工内容及び仕様

(1) 弘前市墓地公園小型焼却炉・・・1基

1) 型式 不明

2) 本体寸法 (mm) 縦×横×高さ 1,300×700×1,400

3) 材質 外部: SS400 鋼板 内部: 耐火レンガ等

4) 形状 箱型

5) 火床面積 0.4 m²

6) 重量 1000kg

6. 施工範囲

本仕様書は厚生労働省労働基準局発 基発第401 号の2 (平成13 年4 月25 日) 「廃棄物焼却炉施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策について」並びに関係法定,規則,諸通達,労働安全衛生規則,廃棄物焼却炉施設解体作業マニュアル等を遵守するとともに,周辺環境に対しても十分に配慮して行うこと。

7. 施工手順の検討

本工事は,施設ごとの周辺状況や建物の持つ条件 (構造物高さ) 等を考慮し,作業場所の分離・養生等を行うこと。

8. 事前調査結果

発注者により,解体対象物のダイオキシン類等の調査 (平成29年6月2日採取) を行った結果は,別表-1, 2 に示すとおり。

別表-1

試料名		小型焼却炉堆積物
採取日		平成29年8月8日
ダイオキシン類	pg-TEQ/g-dry	94
基準値	pg-TEQ/g-dry	3000
基準値との比較	—	基準値内

別表-2

試料採取場所	弘前市墓地公園 小型焼却炉
--------	---------------

試料名	堆積物
分析の対象	分析の結果
アルキル水銀化合物	不検出
水銀又はその化合物	<0.0005mg/L
カドミウム又はその化合物	<0.001mg/L
鉛又はその化合物	<0.005mg/L
六価クロム化合物	<0.05mg/L
砒素又はその化合物	0.026mg/L
セレン又はその化合物	<0.005mg/L
1,4-ジオキサン	<0.005mg/L

9. 作業解体管理区域と保護具の選定

前項の事前調査結果は、3,000pg-TEQ/gを下回るものの解体作業時は、ダイオキシン類濃度が高くなる恐れがあることから、第3 管理区域とし、保護具のレベル3 とする。

10. 安全衛生管理・教育仕様

(1) 作業指揮者の選任

- 1) 受注者は作業指揮者を選任し、保護具等の使用、粉じんの飛散防止措置等について知識、経験を有する者を常時解体本作業に配置し、作業者の指揮を行うこと。
- 2) 作業従事者の保護具着用状況及びダイオキシン類を含むものの飛散源の湿潤化の確認を行うこと。

(2) 解体作業主任者の選任

コンクリート構造物の解体作業においては、コンクリート造の工作物の解体等作業主任者を選任し、監督員の承諾を得ること。

(3) 作業主任者の選任

高所作業を行う場合は、作業主任者を選任し、監督員の承諾を得ること。

(4) 健康管理

受注者は、作業従事者に対して、労働安全衛生法に基づく一般健康診断を実施するとともに、ダイオキシン類へのばく露による健康不安を訴える労働者に対して、産業医等の意見を踏まえ、必要があると認める場合に、就業上の措置等を適切に行うこと。また、事故、保護具の破損等により当該労働者がダイオキシン類に著しく汚染された可能性が生じた場合は、速やかに当該労働者に医師による診察若しくは処置を受けさせること。なお、この場合は当該労働者の血中ダイオキシン類濃度を測定し、その結果を30 年間保存すること。

(5) 特別教育

作業従事者には、安全衛生規則592 号の7 及び特別教育規定に定められるところにより、作業開始前に作業員に対してダイオキシン類の危険性、当該施設の汚染度、保護具の適切な使用方法及び、作業方法についての特別教育を行い周知徹底を図ること。また、作業従事者が新たに加わる場合は、その作業員に対しても、その都度、特別教育を行うこと。

11. 仮設・準備工事

- (1) 解体撤去工事に伴う粉じん等の飛散を防止するため、枠組み足場等の仮設物により管理区域を隔離養生すること。また、その内部の床・壁・屋根等はパネルやビニールシート等で養生するとともに、管理区域内からの汚染物質の流出を防ぐため、パネル同士の隙間や開口部等を目張りし十分な強度を持つ設備とすること。
- (2) 洗浄・汚染物除去作業中において、養生シート等で隔離した部分以外から排水等が漏洩しないよう、必要に応じて止水堤等の措置を行うこと。
- (3) 工事範囲内をバリケード等で工事範囲を明確に分離し、工事関係者以外の立ち入りを禁止すること。
- (4) 作業者の休憩室、保護具着衣室、保護具管理室、シャワー室等の必要な仮設を設置すること。
- (5) 管理区域から管理区域外に通じる作業員の出入口には、エアシャワーユニット等の汚染物除去装置を設置すること。
- (6) 保湿マット等を設置し、作業従事者の足部に付着した焼却灰等を除去する設備を設けること。
- (7) 除染した廃棄物を仮置きする場合は、仮置きヤードを設置すること。

1 2. 作業環境測定

- (1) 解体作業中において、作業環境中のダイオキシン類及び粉じん測定を行うこと。
- (2) 測定は、当該作業の行われる時間の内、粉じん濃度が最も高いと思われる時に行うこと。
- (3) 測定位置は、当該作業の行われる場所の内、粉じん濃度が最も高くなるとされる位置とすること。
- (4) 測定点は、1箇所以上とすること。

1 3. 周辺環境測定

管理区域内の空気中の粉じん等についてはチャコールフィルター等により適切に処理した後、排出基準にしたがい気中に排出すること。

1 4. 発生材処分

解体工事において発生する廃棄物は、関係法令にしたがい適正に処分すること。

1 5. 洗浄排水処理

汚染物等を洗浄した際に発生する汚水等は、場外処分として適正に処分すること。

墓地分譲状況図

